

# 新たな信州登山案内人試験の実施方法の概要

○ 長野県山岳ガイド資格制度のあり方等に関する研究会報告書に基づく基本的な考え方

- 試験の基本的な考え方
- (1) 信州登山案内人に必要とされる4つの能力知識の確認。
    - ①安全確保能力 ②登山に関する一般的な知識 ③長野県の山の歴史や文化に関する知識 ④コミュニケーション能力
  - (2) 信州登山案内人の職能範囲に応じた能力知識レベルを有しているかの確認。
  - (3) 試験では、基本的な能力知識を確認し、その後の研修及び自己研鑽により資質を向上。
- 信州登山案内人の職能範囲
- (1) 歴史や文化など長野県の山岳に関する幅広い知識を伝えていること。
  - (2) 無積雪期における、整備された登山道でのガイド行為。
  - (3) 四季を通じた、自然に親しむことを目的としたハイキングにおけるガイド行為。但し、ロープを積極的に使用する岩壁等登攀は除く。



## 1 受験資格

- (1) 年齢満20歳以上
- (2) 登山経験5年以上かつ通算の山行日数200日以上(うち標高1500m以上の雪山経験通算30日以上及び長野県内の山行日数100日以上並びに受験を希望する専門とする山群の山行日数30日以上)又はこれと同等レベル以上の登山経験を有する者であると県内登山案内人組合長から推薦があること。
- (3) 救急法基礎講習等を直近2年以内に受講していること。又は有効期間内であること。



## 2 実施する試験

### (1) 筆記試験

- ・ 共通問題及び選択問題を出題。
- ・ 試験時間: 90分間。
- ・ 出題方式: 記述式、穴埋め式、択一式及びマルバツ式。
- ・ なお、選択問題は択一式。
- ・ 出題分野は右表のとおり

### ○ 共通問題

- ・ 出題数及び配点  
記述式問題: 原則1問(配点5点、最大2問)  
(気象や遭難事例への対応を200字程度で解答)
- ・ その他の問題: 80問(1問につき1点)
- ・ 合格基準: 7割以上

### ○ 選択問題

- ・ 県内の山岳を6つの山群に分類  
①北アルプス、②中央・南アルプス、③八ヶ岳、④御嶽、⑤浅間・秩父、⑥北信五岳・志賀高原・関田山脈
- ・ 出題数及び配点  
山群毎に各10問出題し、1問につき1点とする。
- ・ 合格基準: 7割以上
- ・ 選択問題の成績に応じて、登録証(仮称)に「専門とする山群」を表記する。
- ・ 受験者は、1つの山群を選択してもよいし、複数の山群を選択してもよい。
- ・ 採点は山群毎に行い、合格基準に達した山群があれば、選択問題の合格となる。

○ 新たな信州登山案内人試験の出題分野について

区分	出題分野	共通問題	選択問題
①	条例	○	
②	自然公園	○	
③	読図	○	
④	植物、植生	○	
⑤	動物(鳥類、昆虫類含む)	○	
⑥	気象、天気図	○	
⑦	登山常識	○	
⑧	セルフレスキュー	○	
⑨	長野県の山岳一般(地域情報含む)		○
⑩	長野県の山岳の歴史・文化		○
⑪	長野県の登山ルート		○

○ 出題のイメージ

- 共通問題
  - 1 ○○で正しいと思うものはどれか。
  - 2
  - 3
  - 5
  - 80
- 選択問題
 

次の6つ山群から、あなたが受験申込時に選んだ山群の問題を答えなさい。  
採点は、1つの山群毎に行い、それぞれの山群で合格基準を設けます。  
最終的に試験に合格した場合、合格基準に達した山群を、「専門とする案内山群」として登録証に表記します。

  - 北アルプス
    - 1 ××で正しいと思うものはどれか。
    - 2
    - 5
    - 9
    - 10
  - 中央・南アルプス
    - 1
    - 2
    - 5
    - 9
    - 10
  - 八ヶ岳
    - 5
  - 北信五岳・志賀高原・関田山脈

### 新 (2) 作文試験

- ・ 事前に課題を提示。提出は試験当日の受付時。
- ・ A4版横書きの指定用紙に、800字~1200字程度で自筆にて解答。
- ・ 課題は、志望動機及び資格取得後の意欲等。
- (出題例)  
「受験動機及びどのような心構えでガイド活動をしたいか書きなさい。」「受験動機及び長野県の山のどのような魅力を伝えたいか書きなさい。」

### (3) 実技試験

- ・ 現行試験の実施項目である、懸垂下降、セカンド確保は引き続き実施。
- ・ 搬送(人を背負う技術)を追加。
- ・ 試験会場: 山岳総合センター人工岩場
- ・ 実際の登山現場の環境に近い実施方法に見直し。
- ・ 実施手順書を公表。

### ○ セカンド確保、懸垂下降

- 改 人工岩場側面の下段テラスを利用した試験とする。
- ・ テラスにおいて、①セカンド確保を行い、お客役補助者を確保する。②懸垂下降で地面へ降り立つ。

### ○ 搬送

- 新 受験者(A)1人、仮想遭難者(B)1人、補助者(C、D)2人とし、(A)は(C、D)の補助を得て、(B)を搬送できる状態にする。
- ・ 試験当日に受験者が持参する装備を使用し、10分以内に行う。なお、装備は事前に指定する。

## 3 合否判定

○ 筆記試験:  
共通問題及び選択問題ともに合格基準に達した場合に合格

○ 作文試験及び実技試験:  
採点基準に基づき、合格基準に達した場合に合格。

↓  
■ 筆記試験、作文試験、実技試験の全てに合格した場合に、信州登山案内人試験の合格とする。

試験に合格!

新 ■ 案内人登録証(仮称)に「専門とする山群」の表示

## ガイド活動

### 新 専門山群の追加

- 既資格保有者は、専門度合いの変化に応じて、「専門とする山群」を追加できる。
- 通常の試験日に、追加を希望する山群の「選択問題」のみを受験。合格基準に達していれば、「専門とする山群」を追加できる。

### 研修の受講

- 座学研修、実技研修の受講を義務付け
- 資格更新の要件

## 新 4 参考図書

【公表の狙い】  
信州登山案内人に求められる知識、技術を明らかにする。

■ 登山に関する知識・技術全般及び救急法:  
→ 登山技術全書(山と溪谷社)  
(1登山、2縦走登山、8山岳地形と読図、9登山医学入門、10山岳気象、11セルフレスキュー)

■ 長野県の山の歴史等:  
→ 「見る・撮る・描く絶景の山」全5巻(信濃毎日新聞社)

